



Bell Friend

鈴鹿短期大学 鈴友会会報 No. 1
平成 18 年 4 月 1 日発行



ページ紹介

ご挨拶	2
鈴友会会長、鈴友会名誉会長	
鈴鹿短期大学の近況	3
故 川瀬和世会長を偲ぶ	
会長の足跡、会長を偲ぶ会	4
川瀬和世会長偲ぶ会によせて 川瀬 昌宏	5
今は亡き川瀬和世様へ	6
平成 16 年度鈴友会総会報告	7
決議事項報告、平成 16 年度新役員ご紹介	
滋賀県支部総会報告	7
鈴友会 会計及び事業報告	8
平成 18 年度鈴友会総会のご案内	8

ご挨拶



鈴友会会長

増田 文子
(昭和44年度卒業)

鈴友会の皆様、お元気でいらっしゃいますか。嬉しいニュースをお知らせしたいと思います。装いも新たに、会報をお届けします。その名も Bell Friend いかがでしょうか。

一昨年は、思いもかけぬ川瀬前会長の訃報。この先どうすればいいのか、残された者として、会長が偉大であっただけに悩みは尽きせぬ程多大なものがありました。しかし、会員の皆様から会則の変更、会報発行の賛同という方向性を見出していただき、やっと今ここに形あるものとして明らかにする事が出来ました。皆様と共に喜びを分かち合いたいと思います。母校においても、今年3月卒業式を無事終了され136名の新入会員を、私達鈴友会として受け入れる事になり、総勢6,685名となりました。

今回の発行に際し、年代を超えて会長の遺徳を大いに知っていただき、会の発展また会員相互のつながりを深めたく、会長の足跡を辿ってみることにしました。

時の流れが永くなればなるほど各年代のつながりが希薄になっていくのは、世の常です。又、私達母校においても、時代のニーズに対応するため種々変化がある事もいたしかたないことと思われまします。久しぶりに訪れた私達会員にとって、周りの景色が、昔とは異なると共に、母校の様子も変わっていく事には、一抹の驚きと寂しさは尽きないものです。しかし私達には、この母校で2年間という歳月にわたり友と学び語り合い、時としては涙したかけがえのない思いを分かちあえられたという、共通点があります。それぞれが、その存在を、青春の輝きを、曇らせることなく、鈴友会の発展のために限りないアドバイスを、永久に贈り続けて下さる事を願ってやみません。そして私達役員一同、微力ではありますが、互いに手をたずさえ、よりよき会の運営を図ってまいります。母校の益々の発展、皆様のさらなるご活躍をお祈り申し上げます。



鈴友会名誉会長・学長

佐治 晴夫

本学は本年[平成18年(2006年)]をもって、創立40周年を迎えます。建学の歴史を振り返って見ますと、家政科単科として、昭和41年(1966年)にスタートをきりましたが、その翌年、昭和42年(1967年)には、家政科を家政専攻と食物栄養専攻に分離し、2年後(1969年)には、家政専攻の中に、教職課程を設置、養護教諭コース開設へと発展してきました。爾来、本学は、三重県内唯一の養護教諭養成機関として、今日の礎を築いてきましたが、その後、平成16年度(2004年)には保育士専攻コースを設置、現在では、生活学科単科の短大ながら、生活学専攻(養護教諭・福祉コース)、こども学専攻(幼稚園教諭・保育士コース)、食物栄養専攻(栄養教諭・栄養士コース)を擁するまでに大きく成長いたしました。この3コースがそれぞれ設置されたことの意味は、人が、生まれてから人生の終焉に至るまで、いいかえれば、人間の一生のそれぞれのステージにおいて、豊かな人間生活を支援する技術を身につけることであり、各コースともに、教職免許取得が可能であることから、地域社会での教育支援活動にも、十分寄与できる人材を育てることにあります。

このように、本学では、常にその時代にそって、大きく発展変容を遂げてきたわけですが、その陰には、本学を卒業された同窓生各位のなみなみならぬご援助があったからこそこのことで、心から御礼申し上げます。

さて、平成18年度からは、大学名も、永年、地域の人々に愛されてきた設立当初の名称に戻し、現代に即した、地域密着型の新しい大学として再出発いたします。より明るいキャンパスライフを提供するために、建物などの一部をリニューアルし、カリキュラムにも改変を加え、全教職員ともども、全力をあげて、新しい大学づくりに向けて努力を惜しまない所存で今日を迎えました。

どうぞ、同窓生の皆様の変わらぬご支援とご鞭撻を心よりお願いして、ご挨拶といたします。

鈴鹿短期大学の近況



鈴友会監事・事務局長
葛西 泰次郎

鈴友会の皆様にはお元氣でご活躍のことと存じます。“本学の近況”をと言うことではありますが、私はこのところ会議の度に『今年は“大学創立40周年”と“大学改革”だ!!』と叫んでいます。

昭和41年開学以来、本学はお蔭様で、今年『創立40周年』を迎えることになりました。人間で言えば“不惑”(四十子而不惑=まどわないこと)の年となります。

ところで、本学はここ3～4年間で学生数が大幅に増加しております。「大学冬の時代」と言われ、全国で定員割れする大学が多い中で大健闘、大変嬉しいことです。

ところが、この学生数の急増は学内にいろいろと問題を生んでいます。そこで、佐治学長が就任2年目を迎えた昨年より、これら問題点を解決し、学生の皆さんにより良いサービスの提供ができることを目的として、40周年のこの時期に次のとおり『大学改革』に取り組んでいるという訳です。

1. **大学名称を変更**
平成18年度より『鈴鹿短期大学』とします。
2. **教育の質の向上**
教職員の学生への対応力の向上に努め、カリキュラム等学務の改編を行います。
3. **学内のリニューアル(改修)を実施**
就進課の「進路相談センター」、学生が憩う「テラス・芝生広場」等を新設、他の多くのスポットも改修し、学内を明るく整えることで、学生の利便性の向上を図ります。
4. **学園内の「人事交流」**
学園内関係校の間で、人材の一層の活性化を目指します。

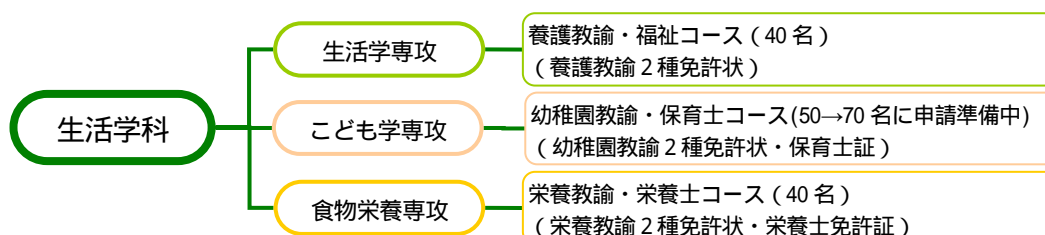
次に、本学の現状は、生活学科の中に、三重県下唯一の養護教諭養成機関として、その半数近くを輩出している生活学専攻「養護教諭・福祉コース」、今の高校生に一番人気があり、今年初めて卒業生を送り出すことで注目のこども学専攻「幼稚園教諭・保育士コース」、そして毎年家庭料理技能検定試験で多くの受賞者を出し、今年度は養成機関としても文部科学大臣奨励賞を受賞した食物栄養専攻「栄養教諭・栄養士コース」の3専攻構成となっています。これで、お気づきのように、これまでの養護教諭に加えて、今年度から新しく幼稚園教諭と栄養教諭が加わり、全ての専攻で教職免許の取得が可能となり、より一層充実した事も嬉しいニュースです。

更に、学校教育法の改正により、長年の願いであった「短期大学士」の「学位」が、今年度の卒業生から授与されることとなり、短期大学が新しい時代を迎えたことも、最近のビッグニュースです。

等々、近況としてもっと、もっと、お伝えしたいことは沢山ありますが、卒業生の皆さまには「毎日が、ホームカミングデー」として歓迎しますので、是非とも、お気軽においで頂き、新しくなった母校を見て頂きたいと存じます。

そして、皆様がいままで誇りに思っている母校であるように、私共教職員一同精進いたしますので、鈴友会を挙げて、母校を一層ご支援下さいますようお願い申し上げます。

平成19年度 学科・専攻・コース募集定員数



故 川瀬和世会長を偲ぶ

平成 16 年 5 月 22 日。訃報が届き、深い悲しみが・・・・・・・・・・・・・・・・合掌。
ここに、会長が残して下さった多くの功績を辿るとともに、偲ぶ会の報告や親しくして
いただいた方々から追悼文をいただきましたのでご紹介します。

会長の足跡

- 昭和 44 年・・・ 栄養士コース卒業、鈴友会幹事に就任
会報創刊号発行
鈴友会会員名簿を発行
- 昭和 48 年・・・ 2 代目会長に就任
- 昭和 54 年・・・ 滋賀県支部を発足
- 昭和 55 年・・・ 10 周年記念号「鈴友会十年」付、会員名簿を発刊
- 昭和 59 年・・・ 白雨会（退職教職員方との親睦会）を発足
- 昭和 61 年・・・ 母校開学 20 周年式典に出席
20 周年記念号「鈴峰をあおぎて二十年」を出版
- 平成 元年・・・ 鈴友会発足 20 周年記念行事を開催
- 平成 2 年・・・ 母校の大学祭で仮装行列を企画参加
- 平成 8 年・・・ 管理栄養士国家試験準備講座を開講
- 平成 15 年・・・ 鈴友会発足 35 周年記念行事を開催
享栄学園 90 周年記念式典に出席
- 平成 16 年・・・ 35 周年記念号「鈴峰をあおぎて」を出版



会長を偲ぶ会

平成 16 年 9 月 5 日（日） 母校にて



鈴友会会長（2 代目）は「会員の皆様をやさしく包む母であり、若い会員には、励ましといつでも相談役になれる姉でありたい」と、35 年もの永年に亘り、献身的に多くの時間を費やし、数々の功績を残して下さいました。

堀敬史理事長には、「会長は、35 周年記念誌『鈴峰をあおぎて』の中で、享栄学園の 90 周年に比べると『たかが 35 年』の駆け出しであるが、私達にとっては『されど 35 年』という歳月であった、と語っておられ、志半ばのままでどんなにか無念であったかと思うと残念でなりません」とお別れの挨拶をいただきました。

その後、足跡をスライドショーで懐古し、ご主人の川瀬昌宏様（山中胃腸科病院小児科医）から届いたお手紙「偲ぶ会によせて」を披露させていただきました。最後には「舟木一夫の大ファンで後援会に入っている」とリサイタルの様子を語るあの笑顔を懐かしみ、短大卒業生（高校三年生の替え歌）を合唱しました。

その後、あの日、あの時の会長を恩師とともに語り合いました。



川瀬和世会長偲ぶ会 によせて

今、雨風が雨戸を激しくたたいています。木々が大きくざわめきます。

今年ほど、次から次と、襲いかかるように台風がやってくる年はないね。これが、もしかして、和世さん、あなたの怒りと涙かも知れないと思うと、居ても立ってもおられません。世界中を嵐に巻き込んで、吹き荒んでみても、あなたの気持ちはそんなことでは表せないでしょう。もちろん私も、それくらいでは気持ちは鎮まりません。

しかし、あれから毎日、一日の仕事が終わって家に帰ってから、あなたの写真の前に座って、今日あったことを、声を出して語りかけていますが、いつも笑顔で、じっと聞いていてくれますね。家の外の嵐の音など、ぜんぜんききえないような、さわやかな笑顔で聞いていてくれますね。

あの忌まわしい日からすぐ後に、山田先生が、出来たばかりの鈴鹿国際大学短期大学部の記念特集号を持って駆けつけてもらいましたよ。涙でかすむ目をぬぐって扉を開けたら、いつもの笑顔で微笑んでいて、かえって私のほうが慰められているような、複雑な気持ちになりました。区切りをつけるというには、余りにもそのとおりになってしまって、「何か予感するものがあったのではないか」とさえ思いたくなくなってしまいます。

一緒に行く約束をしていた、九州大分の日本外来小児学会は、無事に発表できましたよ。会場で、あなたを知っている人たちから声をかけられ、涙を我慢するのがやっとでした。約束していた臼杵の「野上弥生子文学記念館」にもお参りする気持ちで行ってきました。

いままで、学会の準備は発表のことだけ考えていれば、後は全部あなたがやってくれていたのに、自分ひとりで準備してみてこんなにも大変だったことが、今頃分かりました。ずいぶん長い間、甘え切っていたことを思い知りました。

今日、馬籠の藤村記念館の牧野様よりメールが届きました。あなたは馬籠の合併問題を大変心配していましたね。しかし、今年（平成16年）の8月22日の藤村忌でも、昨年と同じようにご詠歌が読まれたそうです。9月の「藤村学会」は、南木曾だから是非出席したかったの、それも出来なくなってしまって、本当に残念です。だけど、資料は送ってくれるそうです。着いたら私が読み上げます。

さて、「心を起こさんと思えば、まず身を起こせ。」「心を働かそうと思ったら、まず体を動かそうよ。」「いろいろ考え、言いたいことはあるでしょうが、まず現場に出て体を動かし、一人でも多くの子どもと関わろうよ。』

こんな風に解釈して、この言葉をずっと胸に抱いて、これからも診察を続けていきます。あなたは病院の窓口で、私の診察の至らないところをフォローしてくれていましたが、その分、今まで以上に熱を入れて診察させてもらいます。

最後に、あなたは、何をしても、人に言われるのではなく、自分から進んで行動する気持ちを、とても大切にしていたことを決して忘れません。これを、あなたが「一番大切にしていた心」と受け留めて、この場をお借りして、鈴友会の皆様にも伝えさせていただきます。

合掌

平成16年9月5日

川瀬 昌宏

鈴鹿国際大学短期大学部同窓会 鈴友会皆様

今は亡き 川瀬和世 様へ

岩崎 ひろ子 (担任)

今年も梅の花のたよりが聞かれる季節を迎えました。あの事件以来、私たちはもうあなたとお会いすることが出来なくなりました。そして何と理不尽な事が・・・と、やり場の無い怒りと哀しみにみまわれるのでございます。

一昨年暮、背の君 昌宏様から喪中につきご遠慮のお葉書を拝受いたしました。(以下その抜粋 無断掲載をお許しください)

[五月二十二日、忌まわしい極みの事態に遭遇し妻 和世を亡くしました。笑顔の写真を眺めつつ未だ信じ難い日々を送っております。

空よ落ちよ わが泣き声は 秋あらし
私事、それなりに前向きに日々を過ごしております。 云々]

このお葉書を頂きましてから、何度もお返事をと筆を執りましたが、胸痛み文にならず、時を逸しておりましたら、思いもかけず、余寒のご挨拶状を頂戴いたしました。

[三月になって、和世と訪れた信州を巡ってまいりました。まだ、雪が残り、寒さも厳しく肌を刺しました。春は名のみ風の寒さや・・・

早春賦 赤白黄に 抱かれて
雪の白一色の厳しい信州に、黄色いマンサクや薄赤色の紅梅・桃の蕾が顔を出して、春を告げている様子が、和世の笑顔と重なりました。これからは、冬の厳しさを残した早春を生きるつもりで、一步一步あゆんでゆきます。 以下略]

遥かに遠山を配した、一面のお花畑。花々が誇らしげに咲き、匂い、風の音さえ伝わってきそうな美しい絵葉書で、「ミズバショウ長野県」と記した切手がはられていました。それにつけても、こんなすばらしいお二人をどうして神様は引き離しておしまいになったのでしょうか・・・

顧みますと、私達は大きなあなたの存在に甘えて、徒にご負担をおかけしてまいりました。これからは、真砂のごとく小さな私たち鈴友会一人ひとりが、力を併せ、あなたの業績をお手本に、努力してまいりたいと思います。どうか、お見守りください。

石谷 幸子 (昭和43年度卒業)

川瀬さんの偲ぶ会に寄せて頂き、学生時代も卒業後も、何事にも一生懸命される方でスマートなお身体で、情熱をどこに秘めていたのだらうと思いました。生涯を自分のことだけに終わらず、人のためにと鈴友会の会報もうれしく読ませて頂きながら、お会いしてお礼が言えなかった事が心残りです。

岩崎先生、橋本先生、クラスメート、後輩の皆さんとお会いでき、山田先生をはじめ多くの卒業生が母校に残られ、鈴友会の事もご尽力くださった事、改めて知りました。

後任の増田会長の川瀬さんに送られるお言葉には、川瀬さんの情熱が十分伝わっていることが感じられました。きっと安心して見守って下さっていると思います。大阪の地より、皆さんに感謝とエールを送ります。

南部 かよ (昭和45年度卒業)

同窓会の事務局に関わり早いもので10年余りになります。その間、会長とは総会でお会いする程度でした。平成16年3月に35周年記念誌の発刊にあたり、打ち合わせする機会もふえ、会長との距離も近づきつつあった矢先の、悲しい、痛ましい事件でした。記念誌の構想も、ほとんど会長に携わっていただき、とうとう、遺稿となってしまいました。

その記念誌の打ち合わせの折、小休憩で二人きりになった時、島崎藤村の話、毎年必ず信州へ行くこと、また、思わぬ一面、舟木一夫のファンクラブに入っていて、コンサートを何より楽しみにしてみえることを、とても楽しげに話して下さったことが脳裏から離れません。病院の仕事を全力投球の上、小柄な体にしっかり同窓会を背負っていただいていた。

会長！総会のたびに力強く言われた言葉。忘れられません。「一人きりになっても総会は開きます。」会長の熱い思いを絶やすことなく、同窓会を次世代にバトンタッチするためにも残された者で奮闘しています。

いつか会長を探しに信州を訪れたいと思います。会長との出会いをずっと大切にしつつ...

平成 16 年度 鈴友会 総会報告

平成 16 年 9 月 5 日、母校にて平成 16 年度総会が開催されました。協議の決議事項は下記のとおりです。また、総会終了後の茶話会では、ご出席いただきました懐かしい先生方を囲んで、共に過ごした学生生活の思い出話が尽きませんでした。そして、卒業して間もない方は、「鈴峰をあおぎて」を手にし、35 年という鈴友会が迎った歴史を感慨深げな様子で見ている姿が印象的でした。



決議事項

- ★ 鈴友会会則改定・・・総会 2 年に 1 回開催する。
- ★ 会報の発行について・・・2 年毎に発行する。
- ★ 役員改選・・・・・・・・・・新役員決定。(新役員は下記に示す方々となりました)

名誉会長	佐治 晴夫	学長
会 長	増田 文子	昭和 44 年度・栄養士コース卒
副 会 長	山田 健	平成 10 年度・栄養士コース卒
書 記	鎌田 美千代	昭和 56 年度・養護教諭コース卒
	米田 綾夏	平成 15 年度・養護教諭・福祉コース卒
会 計	元木 ひとみ	平成 4 年度・商経学科卒
	川村 亜由美	平成 10 年度・栄養士コース卒
監 事	葛西 泰次郎	事務局長
顧 問	堀 敬紀	副学長
	小林 壽子	昭和 45 年度・養護教諭コース卒
	福永 峰子	昭和 53 年度・栄養士コース卒

滋賀県支部 総会報告

支部長 平尾 友子(昭和 44 年度卒業)



残暑の厳しい、平成 17 年 9 月 10 日土曜日、鈴友会滋賀支部の総会を、恩師や鈴友会会長のご参加を得て、甲賀市水口町のサントピアで開催いたしました。9 月は、地域や学校の運動会行事等があるためか、会員 6 名だけの参加となり少し淋しい集いになりましたが、昼食を囲み、お話がはずみました。懐かしい短大時代の思い出、同級生の近況など、2 年間という短かった学生時代に戻ったようなひと時でした。

今は家庭人として、職業人として、それぞれの地域で活躍されている中で、同じ学舎の仲間とは気軽に教えあったりでき、心丈夫なものです。

今後の滋賀支部としての運営方法について、会則改定等の話し合いをしました。平成 18 年度総会で提案します。

鈴友会 会計及び事業報告

平成16年度 会計報告 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

(単位:円)

収入の部		支出の部	
前年度繰越金 (定期預金含む)	4,166,420	印刷代	101,238
終身会費 (H15年度卒)	510,000	通信費	177,627
利息 (定期預金含む)	15	事務費	68,355
		役員会議費	6,301
		同窓会援助金	10,000
		慶弔費	38,249
		人件費	253,900
		総会・偲ぶ会*	616,258
		小計	1,271,928
		次年度繰越金	3,404,507
合計	4,676,435	合計	4,676,435

※通信費 (¥560,000) 含む

上記の通り、ご報告させていただきます。
以上、監査するに事実と相違ありません。

会計 川村亜由美
監査 葛西泰次郎

平成16年度 事業報告 (平成16年4月1日～平成17年3月31日)

平成16年		
6月28日(土)	第1回役員会	*役員会 ○卒業記念品(記念誌)
8月27日(水)	第2回役員会	○総会及び偲ぶ会実施について
9月5日(日)	総会	○会報発行について ○滋賀県支部総会実施について
12月17日(金)	第3回役員会	
平成17年		*総会 ○15年度会計・会計監査・事業報告 ○会則改定
2月20日(日)	第4回役員会	○役員選出 ○16年度事業案

平成18年度 鈴友会総会のご案内

平成18年5月13日(土) 午前10時から
鈴鹿短期大学 511教室

9:30～ 受付

10:00～11:30 特別講演 『宇宙の研究が教えてくれること』
～豊かな人生を送るために～

鈴鹿短期大学 学長 佐治 晴夫

12:00～

12:30～ 総会
茶話会

皆様、お誘い合わせの上ご参加ください。



編集後記

新体制で新しい会報ができあがりました。昭和44年に創刊号を発行した頃とは比べ物にならないくらい、パソコンの普及により手直し自由自在。便利な世の中になったものです。会報よりホームページという声。時代に逆行。でも、あえて会報にしました。時を選ばず、場所を選ばず読みたいところだけ目を通せる会報。学校と皆さまとの橋渡しができる会報をお届けしたいと思います。